

## 第12回補助金検討委員会議事録（議事要旨）

- 1 開催日時 平成17年3月22日（木） 午後7時00分～午後9時30分
- 2 開催場所 浦安市役所第2庁舎第205・6会議室
- 3 出席者  
（委員）  
小泉 允 囿 委員長、川口 明 浩 副委員長  
渡邊 襄 一 委員、大川 三 敏 委員、野崎 実 委員、  
藤岡 順 次 委員、館 里 枝 委員、仲澤 泰 委員  
（事務局）  
新宅 秀 樹 財政課長、及川 力 主 査  
渡辺 豊 副主査、文違 一 博 副主査、玉野 広 宗 主任主事
- 4 欠席者  
なし
- 5 議 題  
（1） 補助金検討委員会報告書(案)について  
（2） その他
- 6 議事の概要  
（1） 補助金検討委員会報告書(案)について  
補助金検討委員会報告書(案)をもとに、議論が行われた。  
次回も再度議論をしていくこととなるが、提案、ご意見等あれば4月13日（水）  
までに提出することとなった。  
  
（2） その他  
次回会議の開催は、4月20日（水）。
- 7 会議経過  
補助金検討委員会報告書(案)についての議論が行なわれた。  
事務局：前回会議での意見又は各委員より提出された資料をもとに事務局で取りまとめを  
行い報告書（案）として作成した資料について説明を行った。  
委 員：今回の検討委員会で各部門代表となる団体補助金に対し、担当課とのヒアリング  
を行い、また、131補助金を全員での判断ではないが一件一件内容を確認した  
ということは報告書内に記載するべきではないか。  
委 員：「公益上の必要性は十分かつ客観的妥当性」については判断が難しい。ではあるが  
補助金の支出をする上での大原則である。  
「補助金交付基準の理念」として交付基準なりを踏まえ記載していかないと委員会  
として検討してきた意味がないのでは。  
委 員：提言書を作成し、この提言書は誰に提出し、どのような活用されていくのか。  
活用されるとしたとき、例えば様式の統一をどのように指導・実行し、誰が決算

審査をし透明性を高め、情報公開なりに出して行くことが重要なのではないか。

委員：今回の委員会は団体補助がメインで議論・検討がされてきているが、市の施策として行っている事業に対する補助金の申請等がどのようになっているか。時間等に限りがある中での委員会だったので止むを得ないが、申請と決算の様式を統一し、情報公開ができるようにするべき。施策補助金こそが定額補助金となってしまう。

委員：この委員会の提言として抽象的なもので行くのか、書式類まで指定したものにするのかで提言書の重みが違ってくる。

委員：この提言書が誰に読んで頂くのかが気になる。市長なのか、財政課なのか、市の担当の職員なのか。

時間に追われている職員がどうなのか。以前の経験の中で報告書の最初にインパクトのあるものにしないと、人の気持ちとして読もうとしない。

委員：公益性、必要性など色々な言葉がでてきているが、補助金の必要性などは市長でも担当職員でもなく、市民が判断するものであると記載しては。

委員：この提言書は市はもちろんであるが、補助金交付団体にも配布を望む。

委員：今回の提言では廃止をという判断までは盛り込めないが、情報公開のやり方、あり方を入れることはできるのでは。

この提言が切り口となり市民に公開していくことで統一、評価に繋がることになれば意味があるのではないか。

次回会議は、4月20日（水）に開催します。

本日検討していただいたことを基に、4月13日（水）までに提言（案）を事務局に提出していただきたい。